

19年度東北地方発明表彰

ヒバ抽出物 長官賞

大間の関係者ら知事報告

2019年度東北地方発明表彰（発明協会主催）で、ヒバから抽出されるヒノキチオールと脂肪酸亜鉛の複

合錯体（混合物）の発明が中小企業庁長官賞を受賞した。複合錯体を共同開発し、商品化につなげて「実施功績賞」を受賞したヒバ開発（大間町）の大見義紀社長と県産業技術センターの成田勝治理事長が16日、県庁で三村申吾知事に受賞を報告した。

同長官賞を受賞したのは、03年に複合錯体の特許

を取得したヒバ開発の元社員や岡部敏弘・芝浦工業大学大学院連携大学院客員教授ら5人。

ヒノキチオールは優れた抗菌効果があるとされる一方、光や熱に弱く、防腐作用がある塩化亜鉛を混合する必要があった。しかし塩素を含むことから、肌への影響が懸念されていた。岡部教授らは、化粧品などに幅広く利用されている脂肪酸の一種、ステアリン酸亜鉛とヒノキチオールを混合することで、肌に安全で光



三村知事⑥に受賞を報告する大見社長④と成田理事長

てきたことが受賞につながったと思う。今はネット販売が中心だが、外国人旅行者にもアピールして業績を上げたい」と語った。

（小橋徹）

実施功績賞以外の本県関係の受賞者は次の通り。

や熱に対する課題も克服した。ヒバ開発はこの複合錯体を使って無添加のシャンプーやボディソープ、肌用クリームを製品化した。三村知事と懇談した大見社長は「特許取得から十数年、無添加の商品を開発し

▽中小企業庁長官賞 金澤稔博、北山友佳子、岡部敏弘、森田泰弘、福井徹▽県発明協会会長賞 根井武廣（ホタテ用養殖籠およびホタテの養殖方法）▽発明奨励賞 小野寺俊弥、宮下光良（大腸菌の検査装置および検査キット）▽奨励功労賞 榊美樹

令和元年10月17日 東奥日報 掲載

※この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。